



家づくりへの参加は、
新しい暮らしへの第一歩。

1 / 薪ストーブと吹き抜けのある広間。障子越しの優しい光に包まれて、明るく暖かな空間になった。

2 / 家に明かりが灯った夕景。格子から漏れた灯り、木部を照らした灯りがとても綺麗で、落ち着いた印象を与えている。



今回は昨年9月に完成したTさんのお宅をご紹介します。『虹の家』と名付けられたTさんのお宅は、掛川市北部の少し小高い山を造成した区画整理地に建築されました。数年前から家づくりを考えられていたTさんは、利便性よりもゆったりとした開放感のある土地に暮らしたいと考え、住み慣れた地域を中心に土地探しから始められていきました。数か所の候補地を検討し、開放感や周辺環境、また、Tさんの育った地域にも近いと言う事でこの地に暮らす事を決意され、土地の決定に合わせて本格的な家づくりがスタートしていきました。家づくりやその後の暮らしに求める要望は一人一人に様々な思いがあると思いますが、Tさんご夫婦の思いは明快で、『自分たちの手で暮らしを創って行く事』にあるように思います。様々な事にチャレンジし、そして一つ一つ積み上げた家づくり。Tさんの奮闘の様子も交えてお伝えしたいと思います。

家を作る 暮らしを創る

建築例 / 掛川市『虹の家』
文・写真 / コロポ 山崎健治



『火のある暮らし』を 生活の中心に。

家づくりのはじめから明確なイメージを持っていたTさんですが、元々、数年前にコロボで家づくりを行っていた『春の家』（コロボ通信№23掲載）のNさんとの親交が深く、お宅に遊びに行ったり話を聞いたりする中で木の家への関心が高まり、木の空間の心地良さや素材感、そして、何と言っても薪ストーブを取り入れた暮らしを気に入られ、火のある暮らしを生活の中心にしたいという思いが高まっていきま

した。車庫スペースや収納スペース、または、採光や風の流れといった事に加え、薪ストーブをどこに配置するのが良いか？ 何れも何れもみんなプランを考えたい事を感じています。テレビやピアノ置き場との関係をはじめ、効率よく家中を温めてくれる場所はどこか？ 調理に適した場所は？ など、数回に渡ってプランを検討していき

きました。最終的には大きな吹き抜けを設けたダイニングに薪ストーブを配置し、暖房効率や作業性を重視した位置への設置となりました。薪ストーブはエアコンやファンヒーターなどの空気を暖める暖房器具とは違い、輻射熱で壁や床、天井などを直接暖めてくれます。それぞれの表面温度が上がる

事で室内の温度も高くなり、ぽかぽかとした心地良い空間になります。薪ストーブを家の中心に配置する事で吹抜けを通して家全体を暖めてくれるので、薪ストーブの配置は快適に暮らすための重要な鍵になります。早速この冬から使用している薪ストーブのお話を伺うと、思っていた以上に暖かく、毎日気持ちよく過ごしていると話していたきました。暖かさだけでなく、火を見る心地良さやピザなどを焼く楽しみなども味わえて、すでに、火のある暮らしが生活の中心だと伺いました。

Tさんは、家の建築と並行して薪作りを始めたので、はじめてのシーズンでも薪は十分に確保されています。薪の乾燥状態や使用量をチェックし、次のシーズン用の薪もそろそろ準備しようかな？ と楽しそうに話されていました。

6 / 着火の前に着火材を利用して薪ストーブの上部を暖めている。こうしてあげる事で温度差によるドラフトが起こり、着火時の逆流を抑えることができる。

7 / Tさんの選んだ薪ストーブは、「ネスターマーチン S33」炎の綺麗さに定評のある薪ストーブ。安全面やメンテナンス面も考えられている。

8 / Tさんが家づくりと同時平行で作った薪。木口の割れを見ながら乾燥状態を把握し、乾燥したものから順に使っていると話していた。

9 / 薪ストーブの調整をしているTさん。薪ストーブの扱いにも慣れ、火のある暮らしを楽しまれていると聞きました。



3 / 西側道路から見た外観。住宅部分と車庫部分の仕上りや造りを変え、変化のある外観となった。

4 / 中庭から見上げた外観。西側道路からの視線を車庫部分の板塀が遮り、プライバシーの高い中庭になっている。

5 / 2台分のスペースを確保した車庫。車庫内部に設けた収納スペースはとても重宝。生活に欠かせないスペースです。

実用性とデザイン性のある プラン計画

元々Tさんは一軒家の借家にお住まいで、そのお宅には2台分の車庫がありましたが、車庫の広さも十分で、趣味の海釣りの道具を中心に様々な物も車庫に収納されていました。家の間取りや動線などには問題があったようですが、車庫の実用性の高さを実感されていたTさんは、新築の家にも2台分の車庫スペースを取り入れたいと考えていました。車庫周辺には海釣りの道具や様々な生活道具を収納する場所を設け、取り出しやすく使い易く、そしてそれがきちんと綺麗に整理できる収納方法を

考えて間取りや詳細設計を進めていきました。収納方法や寸法などはTさんが細かくチェックし、スペースを無駄なく使える工夫をしていきました。外収納には釣竿立て

最終的には住宅部分と車庫部分の2つのブロックが重なったような外観になり、それぞれの造りや仕上りを変える事で変化のあるデザインになったと思います。

また、車庫はそのまま中庭とつながるため、車庫部分の背面に板塀を設けてデザイン性を高めた目隠し壁をつくりました。この板塀のある車庫空間が外と中を上手に区切り、中庭の心地良さを高めてくれていると共に、生活の動線をはじめとする暮らし易さの鍵になっているように思います。現在中庭はまだ手付かずとなっていますが、じっくりと時間を掛けて植栽や菜園を計画し、部屋の中外で楽しめる緑いっぱいの中庭に変化していくと思います。

やクーラーボックス置き場、玄関脇の土間収納には外部で使用する道具や靴、釣った魚を保存するための冷凍庫スペースも計画され、実用性に合わせた収納計画が出来たと思います。

実用性に合わせて計画された車庫スペースですが、この家の外観を決める大きなデザイン要素にもなるため、屋根の高さや外壁の仕上げなども注意深く決めました。車を二台並べて駐車するためには約5.5m程の開口部が必要になり、大きな開口部への負担を減らすため車庫部分を住宅部分から独立させた配置とし、5.5mの開口部には合せ梁の技術を用い、重厚な印象になり過ぎないように設計しています。

セミ・セルフビルド

— 施主参加型の家づくり —

施主参加型の家づくり、是非積極的にチャレンジしてみてください。コロボスタッフもお手伝いさせていただきます。

今回ご紹介している『虹の家』の完成現場報告では、施主のTさん自らが作業をしてくれた工事を幾つかご紹介しています。薪ストーブの薪を乾燥保管するための薪小屋製作や、家の外部木部の塗装、2階の寝室や子供部屋の塗り壁工事、完成後の床のワックス塗装工事など、いろいろな工事に積極的に取り組んでいただきました。

施主が自ら工事に参加すると聞くとしど驚かれる方も多いと思いますが、コロボの家づくりでは珍しい事ではありません。ホームページやコロボ通信でもご紹介していますが、今回のTさんが作業された工事ははじめ、外構工事の板塀づくりや植栽工事、ウッドデッキを製作したお施主さんもあります。

自らの手で工事をすれば、その分の工事費が削減されるわけですから建築費のコストダウンにもつながりますが、案外目的はその他にもあるように思います。外部や床板の塗装工事などは、完成後の家を良好に維持していくためにはいずれ行わなくてはいけない工事。その時自分たちで出来るようになりたいので新築時に教えてもらいたい。新築したら日曜大工であれこれ作ってみたいのでそのために経験したい。ものづくりが好きなので自分たちの家づくりに参加したいなど、みなさんの気持ちは様々だと思います。

ほとんどの方は未経験の作業が多く戸惑いもありますが、コロボスタッフや大工と共に現場に入れば後は勢いです。材料や道具の準備をはじめ、下地作りや養生など、ひとつの工事をするためには準備が重要で大変ですが、それらの事を知る事で家づくりの醍醐味も味わえます。また、普段は挨拶程度しか話をしない職人さんとも一日現場で働けば会話も多くなり職人さんの仕事を知ることもできます。手解きを受けたり一緒に休憩をしたり、案外楽しい経験になるのではないのでしょうか。

現代の一般的な家づくりのスタイルでは、施主が現場で作業するなどとは程遠く、現場に入ることすら禁止している工務店や住宅メーカーもあるようです。安全面や品質面などを考えれば重要な事なのかもしれませんが、職人と共に現場に入って一緒に時間を共有したり、少しばかり上手にいかなくても自らの家を自らの手で作ることの喜びは大切な経験になり、家への愛着も増していくと思います。

■ プライバシーを確保する『板塀』



中庭や玄関先など、プライバシーの確保のために板塀を設けています。業者にアルミ柱を建ててもらい、塗装した杉の赤身板をビス止めして製作します。横貼、縦貼、板の隙間の大きさなどでも表情が変わり、外観にボリュームを与えてくれます。

■ 外部木部の保護塗装



外部に現した木部はそのままだと灰色化し段々と黒くなっていきます。木部の耐久性に問題は有りませんが、塗装をする事で灰色化を推えることができます。足場に登り大変な作業ですが、色むらしにくい塗料を使えば誰でも綺麗に塗ることができます。

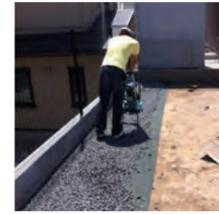
■ 左官体験の出来る塗り壁



寝室や子供室など、プライベートな部屋の塗り壁なら自分でチャレンジしたい！そんな方にお勧めなのがタナクリーム。原材料は漆喰ですが、塗りやすく作られているため左官屋さんでなくても塗ることが出来ます。コテを持って左官体験にチャレンジしてみませんか？

薪小屋のセルフビルド

Tさん主導で作られた薪小屋の製作過程をご紹介します。



1 薪小屋を設置する場所に防草シートを敷き、その上に砕石を敷いて転圧しました。



2 木材を必要な長さにカットし、防腐材を塗ります。この仕事はほとんど奥さんが行っていました。



3 今回の薪小屋の主役はこの接合金物。Tさんが全てのパターンの図面を描き、知り合いの鉄鋼屋さんに製作していただきました。



4 東石を据え、金物で接合した土台部分を設置します。東石の高さや位置も正確に見ておく事が重要です。



5 土台の上にその他の部材を組んでいきます。その後、この部材の上に屋根や棚板を作り薪小屋の完成です。



10 / セルフビルドで作成した薪小屋。大型1台と小型2台で1シーズンで使用する薪を十分に確保できる。

セミ・セルフビルドの参加型の家づくり。

薪小屋は施主のTさんを中心に制作されました。住宅の基礎工事が完了した頃、建前までの現場の空時間を利用して薪小屋作りを行いました。建築屋が制作するのは違い、仕組みが複雑ではない事、短時間で出来る事、安価である事などを条件に、Tさんと一緒に考えていきました。

今回の薪小屋のポイントにはTさんの考案した接合金物です。木材と木材を丈夫に簡単に繋ぐため、筒状の鋼板を溶接して作られています。接合金物なので多数のバリエーションがありますが、それら一つ一つ

Tさんが図面に起こして知り合いの鉄鋼屋さんに制作していただきました。その他、東石や砂利、プレート転圧機までTさんが準備され、木材のみをコロボの手配で整えました。5月の陽射しの厳しい一日でしたが、Tさんのお父さんもお手伝いに駆けつけてくれ、一日で大きな薪小屋十小さな薪小屋2台の骨組みを作る事が出来ました。残りは翌日Tさんがもう一日頑張りました。板金屋さんに屋根材を葺いて頂きました。薪の使用量が解らずこの薪小屋の大きさで十分か？と少し不安もあったようですが、今シーズンの薪の使用量を見ると十分な量だと話していました。

薪小屋の制作をはじめ、今回の家づくりではTさんのセミセルフビルドが活躍しています。外部の木部の塗装、2階室内の塗り壁、内部床のワックス掛けなど、時間を見つけては現場に足を運ばれ、建築工事の進捗に合わせながら作業をしていただきました。中でも塗り壁の工事は未知の世界という事で、下地の処理にかかる時間の把握や、塗り壁の仕上げのコツなどに苦労されていました。夏休みのほとんどの時間をこの塗り壁の作業に使って無事完成されました。友人や知人が応援に来てくれたり、コロボスタッフも少しだけお手伝いをさせていただきました。工事の終盤には手付きも良くなり、仕上りにこだわりを感じる場面もありました。



11 / 吹抜け上部よりダイニングを見る。ダイニングテーブルがこの家の中心。食事をしたりお絵かきをしたり、いつもみんなの集まるテーブルです。



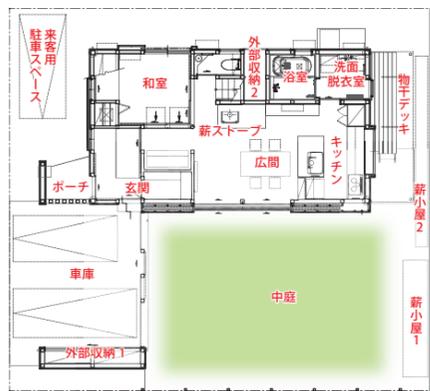
仕様内容

家族構成	家族4人
敷地面積	216.98㎡
建築面積	88.18㎡
延べ床面積	125.16㎡
構法	在来工法 2階建て
屋根	ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板 ラスモル下地 吹付仕上
外部建具	木製オリジナル建具 桧、ナラ ペアガラス+アルミサッシ (ペアガラス)
天井仕上	杉板本実張り 厚 12mm
壁	漆喰塗り、タナクリーム塗り (施主施工)
床	栗板本実張り 厚 15mm
内部建具	杉板本実張り 厚 30mm オリジナル木製建具
キッチン	オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル化粧台
浴室	ハーフユニットバス：日比野化学工業
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成24年9月

Tさんのチャレンジ精神、行動力にはビックリさせられる事もしばしばありましたが、一つ一つこなしていくうちに『やれば出来る』という自信もついてきたと思います。『出来る事はやってみよう！』『出来るようになるう！』という気持ちはとても大切で、家の耐久性などにも大きく関係してくると思います。

完成して数か月後にお伺いした時には、玄関先の植え込みスペースや、レンガで出来た外流しが新しく完成していました。暮らし始めてまだ数か月ですが、小さな経験がこれからの暮らしの中でどんどん成長し、木の家と共にたくましく育っていく事だと思えます。

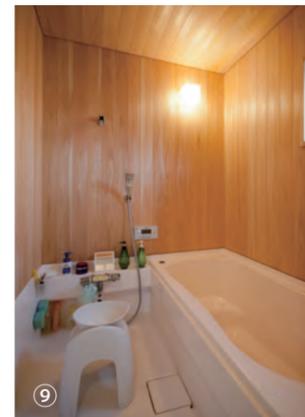
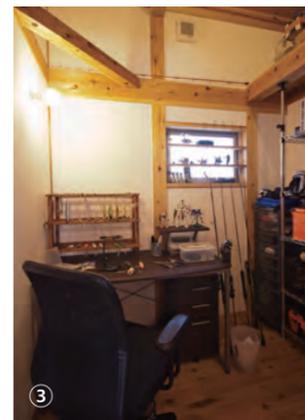
今度はお庭づくりですね。ちょっと大きな工事もありますが、楽しみながらチャレンジしてみましよう！



1F 平面図・敷地図



2F 平面図



『虹の家』その他の工夫

さまざまな工夫や特徴の詰まった『虹の家』。ビックリする仕掛けは無いですが、長く愛着を持って暮らして頂くための工夫が詰まったお宅です。家づくりの参考にして下さい。

- ① 広間の一角に設けた小上りの和室。子供のお昼寝や来客の寝室、ゴロっとくつろぐにもちょうど良く、どことなく心地良い空間です。
- ② 収納をたっぷりとった二の字型キッチン。食器洗浄機をビルトインで組み込み、発酵器のスペースも確保。巾木部分を利用した、ルンパ基地も作りました。
- ③ Tさんの趣味室。壁はTさん施工のタナクリーム塗り。釣の大好きなTさんらしく、この部屋も釣り道具でいっぱいです。
- ④ 南面いっばいに設けたバルコニー。雨かかりを少なくするため、軒を深く出しました。耐久性とメンテナンスを考え、床はデッキ式の作り。簡単に交換できる納まりになっています。
- ⑤ 玄関ポーチ内部。遠州地方独特の冬の西風を避けるために玄関ポーチに風除け壁を設置。この壁を利用してポストや表札を付けています。
- ⑥ 広間の AV ラック。各サイズや配線スペース、扉の開閉も工夫。このスペースに TV 廻りの機材も収納。壁掛け TV 廻りをすっきりとさせています。
- ⑦ 1階に採用した栗の床板。耐久性や風合いを考慮して選んだ床板。広葉樹なので硬い印象の床板ですが、マットな表面なのでそれ程硬さを感じません。
- ⑧ 2階ホールのパウダースペース。カウンター下にはたくさんの収納も出来るため、色々使えて便利な場所になりました。
- ⑨ ハーフバスにサワラの板を張った浴室。サワラ独特の香りと色合いがとても心地良く、毎日の入浴が楽しみになる浴室です。